



全国に誇れる防災リーダーを 仙台に！



仙台市危機管理室減災推進課
減災推進係 小関一慶

1 仙台市地域防災リーダー (SBL)の誕生

仙台市では、昭和53年6月12日に発生した宮城県沖地震を契機に全国に先駆け「防災都市宣言」を行うとともに、震災の教訓を活かした具体的な取組として、自分たちの地域は自分たちで守るという自助・共助の観点から自主防災組織の結成を促進してきました。その一方で、時間の経過とともに「防災活動の内容に組織間で格差がある」「防災訓練がマンネリ化している」等の課題が浮き彫りになってきていました。

こうした課題を解決するため、改めて自助・共助による取組を促進していくことを目的に平成22年5月から学識経験者や町内会等の地域団体関係者で構成される「地域防災リーダー養成プログラムに関する検討会」を設置し、本市の実情に即した独自の防災リーダー養成の在り方について検討を行い、平成23年3月に発生した東日本大震災から得られた教訓も踏まえ養成カリキュラムを作成しました。

このような背景や過程を経て誕生したのが、仙台市地域防災リーダー (Sendai-shi Chiiki Bousai Leader の頭文字から「SBL」と呼称しています。) です。

当初、委員会報告に基づき、平成23年度からSBL養成を開始する予定でしたが、さきに触れた東日本大震災の発生により災害対応等を優先しなければならず、実際に養成が始まったのは平成24年度か

らでした。

2 防災リーダーを地域に！

本市では、SBLを市内114ある連合町内会に各5名程度配置することを目標に平成29年度までの6年間で690名の養成を行ってきました。

講習会のカリキュラムは、講義や実技、グループディスカッションで構成し、2日間の全日程を履修した受講者に認定証を交付し、地域の防災活動で使用してもらうためのヘルメットとビブスも貸与しています。

また、SBLのスキルアップや相互の連携強化を目的として、平成26年度からバックアップ講習会を実施し、連合町内会長等も交えたグループディスカッションやワークショップ等を通じて、地域とSBLの顔の見える関係づくりに努めています。

現在、SBLは町内会長等を補佐しながら様々な自主防災活動の中心的な役割



住民の避難誘導



養成講習会の様子（D I G）

を担う人材として地域で活躍し、地域ならではの課題がありながらもその活動が根付きつつあります。

なお、SBL受講者の募集方法は、各区の連合町内会長協議会推薦枠に加え、平成25年度からは、地域の自主防災組織等と協力して活動を行うことを条件に一般公募枠を設け、女性や若い世代の受講者の増加を図っています。

3 SBLの課題と今後

地域防災の核となるSBL制度については今後も新規養成事業のほか、連合町内会や単位町内会における認知度の向上と活動支援を継続的に行っていく予定です。



養成講習会の様子（座学）



養成講習会の様子（救助訓練）

す。また、女性や若い世代の割合を更に増やすために、募集方法や講習内容などについて、絶え間なく必要な検討を加えていくことが大切であると考えます。

SBLは各々意識が高く、身に付けた知識や技術をもとに地域活動にも積極的に参加していますが、市内にはまだSBLの空白地域もあります。そうした地域でも育成が進むような働きかけを行い、町内会、SBL、関係機関などさまざまな主体との連携を強化し、地域防災の活性化に今後も取り組んでいきます。

